

通信 i・ストリーム（法人版）VOL.48



文：小川 康成
ファイナンシャル・プランナー

不安定な海外情勢と急激な円安が企業と家計を直撃し、負のループからの脱却は先の見えない長いトンネルのようです。円安によるメリットは、海外に工場などを持つグローバル企業の利益以外には、結びついていない様子、逆に国内では食品や燃料費、建設コストの増加で、コロナが少し落ち着き、経済活動が再開し始めている今でも GDP の回復は鈍く、しばらくは物価の上昇とコストの増加で企業経営を苦しめそうです。円安時のメリットで、企業の生産拠点を海外へ移転する事により、輸出が増えるという構図は、すでにはるか昔に消えており、日銀総裁の発言の「円安は日本経済にメリット」が指す経済とは、極々一部の大企業に限られているように感じます。

「アルコールチェック義務化対応は済みましたか？」



2021 年 6 月に千葉県において、下校中の小学生の集団に飲酒運転のトラックが突っ込み、児童 5 人が死傷する事件が発生しました。驚く事に運転者は、日頃から勤務中に飲酒していたようで、当日も勤務先へ戻る途中に、京葉道路下り線の幕張パーキングエリアでアルコール度数 20 度の焼酎 220ml を飲んだ後、大型トラックの運転を再開したが、居眠りを起こして児童の列に突っ込みました。

事故を起こした車両は、アルコール検査が義務付けられた貨物自動車運送事業法に基付く緑ナンバーの事業用自動車ではなく、白ナンバーの自家用車両であったことから、警察庁の動きは速く、飲酒運転防止の強化策として、有償でものを運ぶことを請け負う緑ナンバー車両だけではなく、自社の業務に使用するいわゆる一般的な社有車などの乗用車を 5 台以上所有する企業や 11 人以上の定員の自動車を 1 台以上持つ企業には、安全運転管理者を警察に届け出る事を義務化しました。

4 月 1 日以降、乗車前後の酒気帯びの確認を行い、記録をとることが道路交通法で義務づけられました。また 10 月 1 日より、アルコール検知器での酒気帯びの確認が義務化となります。

安全運転管理者の選任

安全運転管理者制度とは、一定台数以上の自動車を使用する事業所において、事業主や安全運転管理者の責任を明確にし、道路交通法令の遵守や交通事故の防止を図るため道路交通法に定められた制度です。

安全運転管理者を選任しない場合、事業者に対して 5 万円以下の罰金が科せられます。

企業は管理者を選定したら、公安委員会（警察署）に届け出る必要があります。

罰金

1. 社員による交通事故・交通違反は、社員だけでなく会社や管理者にも責任を問われるケースもあります。
2. 特に「飲酒運転・過労運転・無免許運転・無資格運転・最高速度超過・過積載運転」などを命令すること、容認・黙認することが刑事罰の対象となります。
3. 社員が違反や事故を起こすことがきっかけで、管理者が責任を問われるケースもあります。年間で約 1,000 人の安全運転管理者が違反取り締まりを受けており、刑事罰も受けています。また、管理者だけではなく、会社も自動車の使用制限が命令されるケースもあり、社員の交通違反・事故の報告ルールを策定する必要があります。

なくならない飲酒運転

警察庁の発表によると、令和2年には2,522件の飲酒運転による事故が発生しています。千葉県のような事故を社員が起こしてしまった場合は、会社としての社会的信頼の失墜を免れることは出来ない事態になり、最悪取引先からの取引停止などにつながる恐れもあります。

中には、前夜に深酒したために本人も自覚がないまま出勤、飲酒による酒気帯び状態で運転し事故を起こすケースも見られ、今回のアルコールチェック義務化の要因の一つとなったのでしょう。



4月から目視の点検、10月から検知器による確認が義務化

4月1日の道路交通法改正で、社用車の運転前後にまずは目視による酒気帯び確認と記録の義務が生じました。

- アルコールチェックは原則として対面で行い、運転者の顔色や呼気の匂い、受け答えの様子などを確認しなければなりません。
- 対面が困難な場合、管理者がカメラやモニターで運転者の顔色・様子を確認する必要があります。



10月1日以降は、アルコール検知器を本人に持たせて同時に測定結果を報告してもらう必要があります。

先日の北海道・知床の観光船事故で、事業者は事業許可を取り消されたようですが、法令遵守意識の高まりにより、義務化されている事に対応せずに大事故などが起きた場合には、会社に大きなダメージを受けることを経営者だけでなく、社員さんにも理解してもらう必要があります。

アルコール検知器は主に2方式が存在

10月より必要となるアルコール検知器ですが、センサーの違いにより大まかに2種類に分類されます。違いを理解して自社に適した検知器を選びましょう。

- 半導体センサー方式
 - ①検知精度：中程度（アルコール以外のガスに反応しやすい）
 - ②測定時間：短い
 - ③耐久性：半年～1,000回（低め）
 - ④価格：3,000円～15,000円前後（比較的・安価）
- 電気化学式センサー方式
 - ①検知精度：高精度（アルコール以外のガスに反応しにくい）
 - ②測定時間：長い
 - ③耐久性：1年～20,000回（高め）
 - ④価格：10,000円～50,000円前後（比較的・高価）

*アルコール検知器協議会「認定機器一覧」なども購入の参考にして下さい。



毎日のアルコールチェックと記録、機器の購入と点検など、企業にとっては時間とコストの増加となりますが、万一の社有車での事故の時に公安委員会から指摘されないように記録をとっておくことが自社を守ることに繋がります。

参考までに記録簿のひな形と書き方見本を同封いたします。

また、社員さん向けの教育動画など用意しております。お気軽にお問い合わせ下さい。